

■湯浅倉平　　<関東大震災>直後の警視總監として奔走，宮内大臣直後に<二・二六事件>で天皇を補佐。

ゆあさくたへい

佐賀の乱・・・1874＝　　山口県豊浦郡宇賀村(豊浦町宇賀)の医師の次男に生まれる。

明治14年政変1881＝　7歳：

岩倉具視没・1883＝　9歳：

秩父事件・・・1884＝10歳：父が湯浅家(士族)の養子となる。

帝国憲法発布1889＝15歳：

大本教・・・1892＝18歳：

山口高等学校を経て，

日清戦争始・1894＝20歳：

子規句歌革新1898＝24歳：　東京帝国大学法科大学政治学科を卒業し，内務省に入省。

滋賀県参事官を皮切りに，地方官を転々としたのち，

田中正造直訴1901＝27歳：

日露戦争終・1905＝31歳：

韓国併合・・・1910＝36歳：

明治天皇没・1912＝38歳：　内務省地方局長，

岡山県知事・静岡県知事などを経て，

21ヶ条要求・1915＝41歳：　第2次大隈内閣のとき一木喜徳郎内相のもとで警保局長となる。

民本主義・・・1916＝42歳：　内閣交代により辞任し，貴族院議員に勅選。在任中，同成会に属し，政党内閣には関与せず，

原内閣時代には郡制廃止問題・地方線拡充問題などに反対の立場に立った。

べルサイ条約・1919＝45歳：

原敬首相暗殺1921＝47歳：

関東大震災・1923＝49歳：　*<関東大震災>の発生で混乱しその翌日発足した第2次山本内閣(後藤新平内相)の警視總監に任ぜられ，被災者救護と東京の治安維持に奔走。<虎ノ門事件>の責任を負って免官となったが，

護憲三派圧勝1924＝50歳：　加藤高明内閣(若槻礼次郎内相)成立とともに内務次官に抜擢され，

治安維持法・1925＝51歳：　普通選挙法案の成立に尽力した。その後，朝鮮總督府政務總監として斎藤実総督を補佐し，

金融恐慌・・・1927＝53歳：　帰朝。

共産党事件・1928＝54歳：

世界恐慌・・・1929＝55歳：会計検査院長に就任，

満州事変・・・1931＝57歳：

国際連盟脱退1933＝59歳：　退任し，*一木のあとを受けて宮内大臣となると，謹直清廉な人柄で天皇の信任を得，宮内省内の人事刷新などにあたった。

二二六事件・1936＝62歳：　*<二・二六事件>の発生に際しては，一木枢密院議長らとともに天皇の側近に侍し，反乱の鎮定に向け天皇を補佐，反乱軍に殺害された斎藤実の後任として内大臣に就任。陸軍勢力の宮中への浸透を強く警戒し，

日中戦争始・1937＝63歳：　<二・二六事件>に連坐して軍法会議に付された真崎甚三郎大将の大赦に反対して近衛文麿首相と対立。

以後，内閣更迭ごとに元老・重臣間を奔走して後継首相奏請に参画し，

大政翼賛会・1940＝66歳：　*阿部内閣の退陣に際しては，岡田啓介らを通じて米内光政を後継首相として奏請する工作を進めた。こうした言動で右翼急進派からは“親英米派の君側の奸”とみなされ暗殺計画の目標とされたが，健康を害し，辞任。勲功により男爵に叙せられた直後，肺気腫のため東京市牛込区の自宅で没した。